

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 21 日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21730109

研究課題名（和文） 近現代日本の保守と右翼——その思想と系譜

研究課題名（英文） Conservatism and the right wing in modern Japan

研究代表者

中島 岳志（NAKAJIMA TAKESHI）

北海道大学・大学院公共政策学連携研究部・准教授

研究者番号：40447040

研究成果の概要（和文）：近現代日本の保守と右翼についての研究を行った。保守については『保守のヒント』『リベラル保守』などを発表し、近代日本保守思想の特徴について論じた。右翼については『朝日平吾の鬱屈』『血盟団事件』『橋川文三セレクション』、連載「アジア主義を考える」、連載「親鸞と日本主義」などを発表し、超国家主義が若者の煩悶と呼応するプロセスを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research focused on the conservatism and the right wing in modern Japan. On the conservatism, I published "Hoshuno Hinto (Hint of Conservatism)", "Riberaru Hoshu (Liberal Conservative)", and on the right wing, I published "Asahi Heigo No Ukkutsu (Depression of Asahi Heigo)", "Ketsumeidan Jiken (A case of Ketsumeidan)".

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：保守、右翼、アジア主義、親鸞主義、超国家主義、ナショナリズム、煩悶

## 1. 研究開始当初の背景

90年代後半以降、日本は「右傾化」「保守化」と言われる。90年代前半からの戦後民主主義批判の高まりは、歴史教科書問題や靖国問題、歴史認識問題、謝罪外交批判へとつながり、一定の政治潮流を築いてきた。小林よしのりの『戦争論』のベストセラー化や「新しい歴史教科書をつくる会」「北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会」の興隆、小泉元首相の靖国参拝への支持の高まりなどは、保守・右派勢力の拡大

現象として議論されてきた。2006年の安倍内閣発足、2008年の麻生内閣の発足は、両首相が「保守主義」を掲げる政治家であったため、「日本は保守化している」という印象を内外に強く与えることとなった。

しかし、日本は本当に「保守化」「右傾化」していることができるのだろうか。そもそも「保守」や「右翼」とはどのような思想なのだろうか。

私見では、現代日本では「アンチ左翼」という意識や言説は高揚しているものの、保守思想や右翼思想については、空洞化現象が進

行しているように思える。「保守」を叫ぶ論者や政治家は、そのほとんどが左翼に対する鬱積した不満や苛立ちを表明しているにすぎず、「保守とは何か」「右翼とは何か」という論理をたどる作業は、遅々として進んでいない。

そのような中で、近代日本の「保守」「右翼」の思想系譜を明らかにし現代日本を批評する視座を確立することは、重要かつ緊急の課題と考えた。

## 2. 研究の目的

近年の先行研究では、急速に昭和時代の知識人の分析が進み、多くの成果が提出されている。都築勉『戦後日本の知識人—丸山真男とその時代』(世織書房、1995年)では、丸山真男・竹内好・吉本隆明・清水幾太郎といった知識人たちが議論の対象とされ、敗戦後から60年安保闘争までの思想史が描かれている。また、小熊英二『民主と愛国—戦後日本のナショナリズムと公共性』(新曜社、2002年)では、戦後知識人たちの戦争体験と思想形成過程に焦点が当てられ、そこから左派リベラリストとナショナリズムの関係が論じられている。さらに道場親信の一連の研究(『占領と平和—戦後という経験』(青土社、2005年)、『抵抗の同時代史—軍事化とネオリベラリズムに抗して』(人文書院、2008年)など)においても、左派知識人による「革新ナショナリズム」の論理と系譜が議論されている。

しかし、これらの研究では、保守知識人・右翼知識人については部分的にしか論じられておらず、彼らの思想や系譜が等閑視されている感は否めない。本研究では、これまで等閑視されてきた「保守」「右翼」について本格的な研究を行い、その論理と系譜を明らかにすることを目的とした。

特に、「保守」については、なぜ昭和期の多くの保守思想家が「文学」を重視したのかを明らかにすることで、日本の保守思想の特徴を明確にする。また彼らの多くが「大東亜戦争」に対してアイロニカルな態度をとったことを重視し、本来の保守思想が「大東亜共栄圏」のような設計主義とは一線を画することを明確にした。「右翼」については、戦前・戦後の連続性／断絶性に注目し、伝統右翼の系譜と革新右翼の系譜では、その国家像に大きな乖離が存在することを明らかにした。そして、革新右翼の系譜に属する思想家たちの青年期の煩悶に注目し、彼らの内在的論理の分析に力を入れた。

## 3. 研究の方法

国内外の図書館、文書館を利用し、文献収

集に努めた。収集した文献をもとに、「保守」「右翼」についての分析を進め、著書・論文として公表した。

## 4. 研究成果

研究の成果は、積極的に雑誌論文ならびに著書として発表した。本研究で得られた知見は、具体的には下記の通りである。

(1) 左派が合理主義による理想社会の実現を目指す進歩思想であるのに対して、右派は理性の限界という認識から、理性を超えたものへと依拠する傾向が強い。

(2) 保守思想は、歴史的・社会的に構成されてきた経験知や良識に依拠しながら漸進的な改革を志向する。保守は復古でも反動でもない。人間が永遠に不完全な存在である以上、その人間が構成する社会は永遠に不完全のものとして推移せざるを得ず、それは未来だけでなく過去や現在にもあてはまる。特定の過去を理想化することもできず、現在の制度を絶対視することもできない。そのため、保守は革命のような理性への過信が生み出す急進的变化を嫌う一方で、社会の変容に応じた漸進的改革の必要性を重視する。

(3) 一方、右翼思想は過去へのロマン主義的復古の傾向が強い。現在の世の中の問題は、理想的社会が現前していた過去の墮落であり、理性的計らいを超越した絶対的存在に身をゆだねることで理想が現前すると考える。これは宗教原理主義と共通点が多い。

東京裁判については、英文で論文を書き、インドでの研究発表も行った。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計43件)

1. 中島岳志「私の保守思想(12)—保守するための改革」、表現者41号、P.146-149、2012、査読無
2. 中島岳志「私の保守思想(11)—大東亜戦争と戦後民主主義」、表現者40号、P.150-153、2012、査読無
3. 中島岳志「親鸞と日本主義(最終回)—暁烏敏の恍惚」、考える人冬号、P.254-261、2011、査読無
4. 中島岳志「日中戦争から「大東亜戦争」へ」、潮12月号、P.320-331、2011、査読無
5. 中島岳志「私の保守思想(10)—中庸という非凡」、表現者39号、P.148-151、2011、査読無
6. 中島岳志「田中智学から石原莞爾へ」、潮11月号、P.270-281、2011、査読無
7. 中島岳志「大川周明の理想」、潮10月号、

- P.268-279、2011、査読無
8. 中島岳志「親鸞と日本主義 (8) —吉川英治の愛国」、考える人秋号、P.254-261、2011、査読無
  9. 中島岳志「来日アジア人の期待と失望」、潮 9月号、P.266-277、2011、査読無
  10. 中島岳志「私の保守思想 (9) —震災とナショナリズム」、表現者 38号、P.102-105、2011、査読無
  11. 中島岳志「韓国併合への道」、潮 8月号、P.320-331、2011、査読無
  12. 中島岳志「黒龍会と一進会」、潮 7月号、P.316-327、2011、査読無
  13. 中島岳志「親鸞と日本主義 (7) —自力の超克」、考える人夏号、P.254-261、2011、査読無
  14. 中島岳志「岡倉天心「アジアは一つ」の真意」、潮 6月号、P.316-327、2011、査読無
  15. 中島岳志「宮崎滔天と孫文」、潮 5月号、P.324-335、2011、査読無
  16. 中島岳志「私の保守思想 (8) —熱狂への懐疑」、表現者 36号、P.134-137、2011、査読無
  17. 中島岳志「三国干渉と閔妃暗殺」、潮 4月号、P.316-327、2011、査読無
  18. 中島岳志「親鸞と日本主義 (6) —転向と教誨」、考える人春号、P.220-227、2011、査読無
  19. NAKAJIMA, Takeshi, "The Radhabinod Pal Dissident Judgment and Nationalism in Post-War Japan," International Research Center for Japanese Studies (ed.), *Changing Perceptions of Japan in South Asia in the New Asian Era: The State of Japanese Studies in India and Other SAARC Countries* (インドシンポジウム報告書), 海外シンポジウム報告書 16号、P.253-275、2011、査読無
  20. 中島岳志「私の保守思想 (7) —秋葉原事件と社会的包摂」、表現者 35号、P.106-109、2011、査読無
  21. 中島岳志「天佑侠と日清戦争」、潮 3月号、P.316-327、2011、査読無
  22. 中島岳志「樽井藤吉の「大東合邦論」」、潮 2月号、P.324-335、2011、査読無
  23. 中島岳志「保守にとってナショナリズムとは何か」、表現者 34号、P.66-72、2011、査読無
  24. 中島岳志「私の保守思想 (6) —政治の万能性を疑う」、表現者 34号、P.142-145、2011、査読無
  25. 中島岳志「頭山満、動き出す」、潮 1月号、P.324-335、2010、査読無
  26. 中島岳志「親鸞と日本主義 (5) —蓑田胸喜と「原理日本」」、考える人冬号、P.226-233、2010、査読無
  27. 中島岳志「金玉均という存在」、潮 12月号、P.324-335、2010、査読無
  28. 中島岳志「私の保守思想 (5) —伝統の再会」、表現者 33号、P.132-135、2010、査読無
  29. 中島岳志「なぜ自由民権運動から右翼の源流・玄洋社が生まれたのか」、潮 11月号、P.324-335、2010、査読無
  30. 中島岳志「親鸞と日本主義 (4) —歌人・三井甲之と「同信の友」」、考える人秋号、P.200-207、2010、査読無
  31. 中島岳志「西郷隆盛と征韓論」、潮 10月号、P.132-143、2010、査読無
  32. 中島岳志「私の保守思想 (4) —伝統の再帰性」、表現者 32号、P.128-131、2010、査読無
  33. 中島岳志「最後の血盟団 川崎長光 百歳のテロ告白」、文芸春秋 9月号、P.356-363、2010、査読無
  34. 中島岳志「竹内好はアジア主義に何を見たのか」、潮 9月号、P.140-151、2010、査読無
  35. 中島岳志「なぜ今、アジア主義なのか」、潮 8月号、P.138-149、2010、査読無
  36. 中島岳志「親鸞と日本主義 (3) —倉田百三の恋とファシズム」、考える人夏号、P.214-221、2010、査読無
  37. 中島岳志「私の保守思想 (3) —現実主義と理想主義」、表現者 31号、P.158-161、2010、査読無
  38. 中島岳志「近代日本の精神をたどる」、文芸春秋 SPECIAL 夏号、P.92-95、2010、査読無
  39. 中島岳志「私の保守思想 (2) —神なき時代の人間中心主義」、表現者 30号、P.136-139、2010、査読無
  40. 中島岳志「ガンディーの非暴力と政治」、東洋学術研究 49巻1号、P.201-231、2010、査読無
  41. 中島岳志「親鸞と日本主義 (2) —倉田百三の煩悶」、考える人春号、P.170-177、2010、査読無
  42. 中島岳志「親鸞と日本主義 (1) —保守思想と国粋主義との間で」、考える人冬号、P.112-119、2009、査読無
  43. NAKAJIMA, Takeshi, "L'opinion dissidente de Pal et le revisionnisme historique dans le Japon d'apres-guerre," *Droit et Cultures*, No.58, P.29-42, 2009、査読無
- [学会発表] (計1件)
1. NAKAJIMA, Takeshi, "The Radhabinod Pal Dissident Judgment and Nationalism in Post War Japan," *Changing Perceptions of Japan in South Asia in the New Asian Era: The State of Japanese Studies in India and Other SAARC Countries*, インド・ジャワ

ハルラー・ネルー大学 (インド)、2009  
年 11 月 3 日～4 日

〔図書〕(計 19 件)

1. 中島岳志『血盟団事件』(文藝春秋社)、2012 年刊行予定
2. 中島岳志『リベラル保守』(NTT 出版)、2012 年刊行予定
3. 橋川文三【著】中島岳志【編】『橋川文三セレクション』(岩波書店)、P.1-592、2011
4. NAKAJIMA, Takeshi, "Justice Pal (India)," TANAKA, Yuki & MCCORMACK, Tim & SIMPSON, Gerry (eds.), *Beyond Victor's Justice? The Tokyo War Crimes Trial Revisited*, Leiden/Boston, Martinus Nijhoff Publishers, P.127-144, 2011
5. 中島岳志『秋葉原事件—加藤智大の軌跡』(朝日新聞出版)、P.1-239、2011
6. 中島岳志【編】『やっぱり、北大の先生に聞いてみよう—ここからはじめる地方分権』(北海道新聞社)、P.1-213、2011
7. 中島岳志「宗教ナショナリズムとコミュニズム」、田中雅一・田辺明生【編】『南アジア社会を学ぶ人のために』(世界思想社)、P.182-194、2010
8. 中島岳志・雨宮処凛・能町みね子・清岡智比古【著】『世はいかにして昭和から平成になりしか』(白水社)、P.1-185、2010
9. 中島岳志『保守のヒント』(春風社)、P.1-295、2010
10. 中島岳志「〔解説〕ハインツ・ゴルヴィツァー『黄禍論とは何か—その不安の正体』」、ハインツ・ゴルヴィツァー【著】瀬野文教【訳】『黄禍論とは何か—その不安の正体』(中央公論新社)、P.311-317、2010
11. 中島岳志「堀至徳—二〇世紀初頭のインド熱」、小河原正道【編】『近代日本の仏教者—アジア体験と思想の変容』(慶応義塾大学出版会)、P.316-345、2010
12. 田原総一郎・姜尚中・中島岳志『国家論—僕たちはいま、どこに立っているのか』(中央公論新社)、P.1-295、2010
13. 中島岳志【編】『じゃあ、北大の先生に聞いてみよう—カフェで語る日本の未来』(北海道新聞社)、P.1-183、2009
14. 中島岳志【編著】『インドのことはインド人に聞け!』(講談社)、P.1-228、2009
15. 中島岳志『ガンディーからの“問い”—君は「欲望」を捨てられるか』(日本放送出版協会)、P.1-229、2009
16. 中島岳志『中島岳志的アジア対談』(毎日新聞社)、P.1-365、2009
17. 中島岳志『朝日平吾の鬱屈』(筑摩書房)、P.1-206、2009
18. 中島岳志「アジア主義、その思想と系譜」、

原武史【編】『「政治思想」の現在』(河出書房新社)、P.213-254、2009

19. NAKAJIMA, Takeshi, "Bose of NAKAMURAYA: An Indian Revolutionary in Japan," Promilla & Co., Publishers in association with Bibliophile South Asia, P.1-323, 2009

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

中島 岳志 (NAKAJIMA TAKESHI)

北海道大学・大学院公共政策学連携研究部・准教授

研究者番号 : 40447040

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者 なし